書き手の伝えようとすることをとらえる「読むこと」の指導
－読み取りのためのタスクの与え方と内在化のための音読活動の工夫を通して－

長期研究員　横 山　裕 一

《研究の要旨》

「読むこと」の指導において，文章全体を通して書き手が伝えようとすることをとらえさせるために，読み取りのためのタスクの与え方を，物語の概要や説明文の要点など，書き手が伝えようとすることを正確に読み取るためのヒントとなるよう工夫した。さらに，音読活動を，内在化の促進につながる，意味を意識したものになるよう工夫することで，読解の基礎となる言語知識を増やし，読み取りをスムーズに行えるようにした。

Ⅰ　研究の趣旨

学習指導要領の「読むこと」の指導事項では，ある程度の長さがあり,内容的にまとまりのある文章を読んで，書かれている内容や考え方など，書き手が伝えようとすることを，自分の体験や考えなどに照らしながらとらえることを最終的な目標としている。しかし，これまでの自分の指導を振り返ると，生徒に，まとまりのある文章を読んで，書き手が伝えようとすることをとらえる指導を意識的には行っておらず，結果的に，文章を読み取ることとはどういうことなのかを理解させてこなかったように思う。そこで，読解の際のヒントや手がかりとなるよう，読み取りのためのタスクを工夫して与え，自分の力で文章を読み取る力を育んでいきたいと考えた。

昨年度の研究では，説明文で，大切な部分とその他の情報を整理し，物語では，概要や主題を読み取ることができる，読み取りのためのタスクを与えた。タスクを解決するために主体的に読み取りを行う姿や，活気に満ちた教室の様子などから，読み取りのタスクの与え方を工夫することは，書き手の伝えようとすることをとらえる際のヒントとして有効に働くことが分かった。

昨年度の実践を通して，「読むこと」に対して前向きに取り組む態度を育むことはできたが，生徒は，まとまりのある文章を読むことにまだ十分に慣れておらず，読解の基礎となる言語知識も不足している状態であった。

そこで，本年度は，書かれている内容や考え方を，自分の体験や考えなどに照らしながらとらえるための前提となる，書き手の伝えようとすることを正確に読み取る段階に焦点化し，研究を進めていきたいと考えた。

Ⅱ　研究の概要

１　研究仮説

「読むこと」の指導において,以下の手だてを講じれば,生徒が，書き手の伝えようとすることをとらえることができるであろう。

【手だて１】 読み取りのためのタスクの与え方の工夫

文章内容の表面的な情報を検索させることにとどまらず，複数の英文や段落を読んで，その前後関係を踏まえながら考え，判断するなどしないと答えられない読み取りのためのタスクを与えることで，文章の大切な部分を正確に読み取らせる。

【手だて２】 内在化のための音読活動の工夫

音読を，綴りを見て意味を考えず，ただ発音するような機械的なものではなく，意味を意識した活動になるよう工夫することにより，読解をスムーズに行わせるための基礎となる,語句や表現などの言語知識の「内在化※1」を促進させる。

※1 「インプット情報を，知覚・理解し，長期記憶に転送・格納して，知識として定着させること。」　門田修平(2012)「シャドーイング・音読と英語習得の科学」 コスモピア

２　研究の実際

研究対象　中学校第３学年　68名（２クラス）
実践授業Ⅰ（６月）Unit 2　A Fireworks Festival（４時間）
実践授業Ⅱ（９月）Let's Read 1　A Mother's Lullaby（４時間）
実践授業Ⅲ（10月）Unit 4　Learn by Losing（４時間）

(1) 読み取りのためのタスクの与え方の工夫

教科書や教師用指導書には，文章中から情報を検索すれば答えられる，読み取りにあまり慣れていない生徒でも取り組みやすいタスクが数多く設定されている。それらのタスクは，読み取りへの動機づけを行うのに適しており，私自身もよく利用していた。そこで本研究でも，読み取りの初めに情報検索をさせるタスクを与え，解決させることで，ほとんど全ての生徒を，文章を読み取る学習に向き合わせたいと考えた。生徒の注意が文章内容に向いた後は，読み取りのためのタスクを，文章のおおまかな内容から，徐々に詳細な内容について読み取ることができるよう工夫して与えることで，段階的に文章の大切な部分について理解できるようにさせたいと考えた。実際に，授業実践において，情報を検索させた後に用いた読み取りのためのタスクについて以下に詳述する。

① STEP2（文章の大まかな内容を読み取らせるタスク）

文章全体を読んで，概要を把握していなければ，文章の大切な部分を理解することは難しいと考える。そこで，読み取りのためのタスクを，特定の英文や段落だけの内容について問うのではなく，文章全体を読み取ることができるものにしようと考えた。そのため，（３）～（６）のような内容の正誤を判断させるタスクを，全ての段落に一つずつ設けた（**図１**）。

These days, many foreign sumo wrestlers can speak Japanese quite fluently. But most of them knew little when they came to Japan. It was not easy for them to learn Japanese. Sometimes they made mistakes.

For example, one young foreign wrestler didn't know the word "*Okami-san*" at first. So he confused "*okami*" with "*ohkami*," or "wolf." He called her "*Ohkami-san*." Everyone laughed.

The wrestler was shocked to hear about his mistake. But he learned from it.

Another wrestler made a different mistake. One day he put on a new *yukata* and wanted people around him to check it. But he didn't know how to say "How do I look?" in Japanese. So he said, "*Kirei*?"

Of course, now these wrestlers know the right words. They weren't afraid of making mistakes and learned from them. In the sumo world people say, "Learn sumo by losing." I think the same can be said for many things.

New Horizon English Course Book3, Unit 4より

STEP 1【情報を見つけよう・英語を抜き出そう】

（1）Who is this woman？（女将さんのイラストを指しながら）

（2）What does this wrestler put on（着る）？（新しい浴衣を着ている力士のイラストを指しながら）

※STEP1 は口頭で発問

STEP 2【おおまかな内容を理解しよう・○か×か？】※答えの根拠となる文に下線を引こう！

（3）Many foreign sumo wrestlers made mistakes because it was easy for them to learn Japanese.

（4）One young foreign wrestler called "*okami*" "*Ohkami-san*". So he was shocked.

（5）Another wrestler put on a new *yukata* and said "*Kirei*?"

（6）These two wrestlers know the right Japanese words because they learned from their mistakes.

STEP 3【詳しく読もう・要約しよう】

（7）ある若い外国人力士は（　　）ので，「　　」を「　　」と混同した。

（8）若い外国人力士は，（　　）ということを聞いて（　　）を受けた。（　　）その間違いから（　　）。

（9）もう一人の外国人力士は（　　）ので，「　　」と周りの力士に尋ねてしまった。

STEP 4【大切な部分を読み取ろう】※答えの根拠となる文に線を引こう！

（10）２人の外国人力士はどのように正しい日本語を学んでいきましたか。

図１　読み取りのためのタスクの一例

② STEP3（詳細な内容について読み取らせるタスク）

文章を読んで，概要を把握した後は，（７）～（９）のようなタスクを与えた。文章内容を部分的に要約させることで，文章の詳細な内容についてより正確に読み取らせようと考えた（**図１**）。文章の詳細な内容について正確に理解することが，説明文において，書き手が文章全体を通して伝えたい大切な部分を読み取る前提になると思われる。

③ STEP4（文章の大切な部分を読み取らせるタスク）

（10）は，複数の英文や段落を読んで，その前後関係を踏まえながら考え，判断するなどしないと答えられないタスクである（**図１**）。このようなタスクを設定することで，文章を読み深めさせ，文章の大切な部分について理解させようとした。「間違いから学べることを知り，間違いを恐れず，自分からどんどん日本語を話すようになったから」などと，文章内容に対する深い理解がうかがえる答えを導き出す生徒が，実践の回数を重ねるにしたがって増えてきた。

(2) 内在化のための音読活動の工夫

読み取りをスムーズに行えるようにするためには，読解の基礎となる語句や表現などの知識を増やすことが重要であると考えた。門田修平によると，内容理解後，何度も繰り返し綴りを見て発音する練習をすることで，綴りを見て発音することに習熟し，意味を考えながら音読することができるようになり，語句や表現などの知識の内在化が進むとされている※２。そこで，語句や表現などの知識を増やすために，文章の大まかな内容について理解させた後，意味を意識しながら音読ができるようにしたいと考えた。

※２　門田修平（2012）※１に同じ

① 綴りと発音を一致させ，意味への意識付けを行う音読

音読を行う際，綴りを見て，どう発音すればよいか分からなかったり，発音するまで長く時間がかかったりするようでは，意味に意識が向くのは難しい。そこで，次ページ**図２**の指導計画の基，特に１時間目は，綴りと発音を一致させることに重点を置いた音読を行わせた。ＣＤでモデル音声を数回聞かせた後，モデル音声や教師の範読の後に続いて繰り返して発音させたり，モデル音声に重ねて音読させたりすることで，綴りを見て発音することに十分に習熟させ，意味に意識が向くようにした。

② 綴り・発音・意味を一致させる音読

２時間目に，詳細な内容について読み取りをさせた後においても，理解度には個人差があり，まだ意味がよく理解できない語句や表現が残っている可能性がある。そこで，Sight translationという音読活動を行い，日本語を見た後すぐに英文を発話する練習をさせることにより，語句や表現の意味を確認させ，綴り・発音・意味を一致させた（**図２**）。

③ 意味を聞き手に伝える音読

綴り・発音・意味が一致した後，３時間目に，Read & Look-upという音読活動を行い，英文を読んだ後，顔を上げ，意味が聞き手に伝わるように音読させた。意味を聞

き手に伝えるためには，聞き手の顔をよく見て，意味のまとまりごとに間を置いたり，大切な部分はゆっくり読んだりする必要がある。そこで，４時間目に，練習してきた音読の成果を発表させた。そして，その際，意味を聞き手に伝える音読ができていたかについて，ビデオで撮影した自分の発表の様子を振り返らせたり，教師がフィードバックを与えたりするようにした（**図２**）。

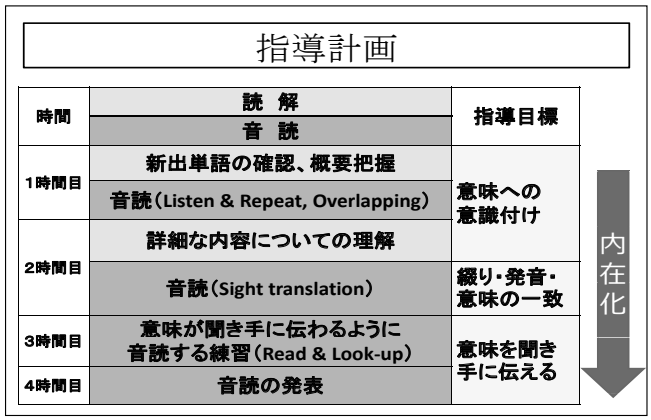

図２　実践授業の指導計画

(3) 実践授業の考察

STEP２～４のような読み取りのためのタスクに正しく答えることができた生徒の割合は，６月の実践授業Ⅰでは59％であったが，10月の実践授業Ⅲでは，77％まで上昇した。

また，６月の実践授業Ⅰでは，音読に意欲的ではなく，意味のまとまりごとに間を置くことができず，ほとんど英文を見たまま４時間目の発表を行っていた生徒は，10月の実践授業Ⅲでは，聞き手の顔を見て，意味のまとまりごとに間をおいて音読することができるようになるなど，意味を意識して音読する生徒が増えた。

Ⅲ　研究のまとめ

１　研究の成果

７月と10月に同じ問題形式を用いて，文章の概要や大切な部分を読み取る力をみる事前･事後テストを行った。平均正答率の推移をみると，文章の概要を把握する力をみる問題が，72％から82％に上がり，文章の大切な部分を読み取る力をみる問題も，61％から82％に上昇した。事後アンケートにおいても，「２，３語分からない単語があっても，前や後ろに書いてあることから考え，文章全体で何を言おうとしているかを理解しようとした」などの感想が見られ，一語一語の意味や一文一文の解釈など，内容の特定部分の理解にのみとらわれる読み取りから脱却している様子が見られた。さらに，「問題を解きながら読むことでだいたいの内容が分かった」や，「キーとなる単語を見付けて文を読み取ったり，答えを探したりすることができた」などの感想も見られ，生徒がまとまりのある文章を読むことに慣れ，文章を読み取る方法を徐々に理解してきたことがうかがえる。

また，音読活動についての感想を見ると，「授業でそんなに文法を詳しくやっていないはずなのに，頭に入ってきてすごいと思った」「一つ一つの区切りごとに暗記をすることでとても分かりやすくて覚えやすかった」「棒読みではなく，話をしているように読んだら暗唱もしやすくなった」など，意味を意識した音読活動が，語句や表現などの言語知識の内在化に有効に働いたことがうかがえる記述が見られた。

さらに，「語句や表現などの言語知識を増やす音読活動は，英語の文章の理解に役に立つと思いますか」という質問に対して，「そう思う」と答えた生徒が 73％，「どちらかと言えばそう思う」と答えた生徒が 27％と，ほとんど全ての生徒が音読の有効性を感じていることが分かった。理由として，「音読をして覚えた単語や文法が文章の中にあると，自然と意味が分かり，内容が理解できるから」「読み取るスピードが速くなった気がしたから」「意味のまとまりを意識して読むことで，内容がよく分かるから」という生徒の記述から，音読が，内容理解にもよい影響を及ぼしていることが推察される。

２　今後の課題

教師から与えられたタスクを文章を読み取る際のヒントや手がかりとすることで，ある程度の分量がある文章を前にしても，抵抗なく文章全体に目を向け，内容を理解することができる生徒を増やすことができた。

今後は，読み取りのヒントとなるタスクを少しずつ減らしていきながら，生徒が自分の力で文章の概要や大切な部分を正確に読み取れるようにし，ひいては，書かれている内容や考え方を，自分の体験や考えなどに照らしながらとらえることにつなげていきたい。そのためには，中学校３年間を見通した継続した取組が重要となる。ＣＡＮ-ＤＯリストの活用を図りながら，ロングスパンの中で，計画的･系統的なカリキュラムの構築を図りたい。

また，意味を意識した音読活動の有効性を生徒が実感し，語句や表現などの定着を図ろうと，音読活動に意欲的に取り組む生徒が増えてきた。そこで今後は，該当単元の指導の時間だけで音読活動を終わらせるのではなく，１，２か月，期間を置き，他の単元の帯の時間などにおいて，既習の内容を繰り返し音読するサイクルを構築したい。そうすることで，言語知識の定着をより確かなものとさせたい。